



福井県越前町織田（旧織田町）との連携事業（第2章 自治体・地域住民と連携した新たな自治体史編纂や 地域歴史博物館形成事業）

坂江, 渉
高木, 久史

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 5(平成18年度事業報告書):77-77

(Issue Date)

2007-03-31

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002256>



福井県越前町織田（旧織田町）との連携事業

センターと旧織田町との間では、2005年度以来、共同研究の契約を結び、同町内の歴史遺産の保全・活用をめぐる事業をおこなってきている。このような県外機関との連携関係がすすんでいるのは、越前町織田文化歴史館の学芸員の高木久史氏が、神戸大学大学院（日本史）の出身者であることが大きい。以下、今年度の取組について記す。

（文責・坂江渉）

1. 越前町織田文化歴史館企画展覧会記念講演会

- (1) 期日 平成18年(2006)10月22日
- (2) 会場 越前町織田文化歴史館
- (3) 講師 奥村弘 神戸大学文学部教授
- (4) 演題 地域で歴史を伝えること ―新しい地域史の可能性をさぐる―
- (5) 概要

越前町織田文化歴史館は平成18年度企画展覧会として「越前の文字の世界」を開催した。本展覧会は地域における歴史資料の再発見・再認識をテーマとし、町内伝来または町の歴史に関する様々な文字資料を集成したものである。

本展の企画趣旨を地域住民へ普及すべく、当館と神戸大学文学部地域連携センターとの共同研究事業の一環として、本講演会を開催した。本会では「記憶を敬称していくことの新たな展開」「地域遺産という考え方の広がり」「地域文化の危機とそれを乗り越えるための地域歴史遺産」の章立てにより、史料ネットの活動等も紹介しつつ、地域史のありようの現状と課題について講演が行われた。また講演終了後、展覧会担当学芸員によるギャラリートークも行われた。

また本講演会は越前町の地域研究・普及事業「越前学悠久塾」の公開講座としても開催された。越前学悠久塾は、越前町の地域歴史・文化研究事業の成果を内外に公開する場であり、主に町学芸員による連続講座（会員限定）の形態で開催されている。本講演会は非会員も聴講可能な公開講座の初の催事であり、多数の来場者を迎えるこ

とができた。

2. 『越前町織田史』（古代・中世編）刊行

(1) 概要

越前町では平成15年度（当時織田町）から町史編纂事業を進めていた。また平成17年度に越前町織田文化歴史館と神戸大学文学部地域連携センターとが共同研究契約を締結し、町史編纂事業は共同研究事業の一環として行われることになった。具体的には編纂・執筆・監修にあたり当センターが協力した。このたび刊行された『越前町織田史』（古代・中世編）はその成果の一部である。

[構成]（執筆者、敬称略）

- 第一章 位置と環境（編集事務局）
- 第二章 遺跡・遺物が語る織田の歴史（堀大介）
- 第三章 古代の織田～生活と信仰（古市晃・堀大介）
- 第四章 中世の織田～織田荘の世界（樋口健太郎・栗山圭子・高木久史・村上雅紀）
- 第五章 信長・秀吉の時代の織田（高木久史）
- 第六章 越前焼（村上雅紀）

当該事業について今後は近世以降の分野につき、ひきつづき越前町織田文化歴史館と当センターとで共同研究を進める予定である。

(2) 頒価 越前町内在住・在勤・在学の方 3,000円。それ以外の方 5,000円（送料は実費負担）。

（文責・高木久史）